

## 岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正  
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

### ① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター
--------------------

### ② 施設・事業所情報

名称：大垣市柿の木荘	種別：障害者支援施設	
代表者氏名：志知 和喜子	定員（利用人数）： 60 名	
所在地：岐阜県大垣市古宮町 3 9 7 番地 1		
TEL：0 5 8 4－8 9－9 5 0 0	ホームページ：http://www.ogaki-fukusi.jp	
<b>【施設・事業所の概要】</b>		
開設年月日 平成 2 年 4 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 大垣市社会福祉事業団		
職員数	常勤職員： 31 名	非常勤職員 5 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	サービス管理者 1 名	医師 0, 1 名(常勤換算)
	管理栄養士 1 名	支援員 1, 5 名(常勤換算)
	看護師 1 名	業務員 0, 6 名(常勤換算)
	支援員 25 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	1 人部屋 4 室 2 人部屋 15 室	食堂 1 指導員室 2 医務室 1 浴室 2 洗面所 4 トイレ 8 相談室 1

### ③ 理念・基本方針（※転載）

基本理念

「あせらず、怒らず、なげださず」

基本方針

- ① 利用者の意向、適性、障がいの特性に応じ、自立した生活ができるよう必要な社会生活上の便宜の供与及び日常生活上の支援と介護、機能訓練、健康管理等のサービスに努めます。
- ② 利用者の意思及び人格を尊重し、人としての尊厳を保った日常生活を送ることができるよう支援します。
- ③ 利用者の意向、趣向、障がいの特性その他の事情を踏まえた個別支援計画を作成し、これに基づいたサービスを提供するとともに、継続的な評価や見直しを行い、質の高いサービスの提供に努めます。また、保護者の方に、利用者の方の日中活動をよりよく知って頂くため、行事や作業に保護者が参加する機会を設け、家族との連携を密にした支援に努めます。
- ④ 職員の研修を計画的に実施し、また、利用者やその家族からの苦情解決のための体制整備を

行い、虐待防止対策委員会等を通じて職員一人ひとりの意識の向上を図ることで、安全安心な質の高い支援に努めます。

#### ④ 施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・余暇支援として買い物支援や外出支援を行い、施設外での経験を多く取り入れている。
- ・利用者主体の生活を送ることの重要性から、自治会活動を活発に展開して利用者の意見を活動に反映している。
- ・地域とのつながりも大切にして、地域行事にも積極的に参加している。

#### ⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成5年11月1日（契約日）～ 平成6年3月31日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	3回（平成30年度）

#### ⑥ 総評

##### ◇特に評価の高い点

##### <理念が理解しやすく優しい言葉で表現されている。>

玄関を入った正面の壁面に理念「あせらず、おこらず、なげださず」が掲げられている。理念は理解しやすい優しい言葉で表現されていて、職員だけでなく、利用者も含めた柿の木荘全体の理念であると感じられた。また、組織図(各委員会)に利用者が参加する等、利用者は組織の一員であり、重要なステークホルダーであることが伝わってくる。

##### <障害に状況に合わせた仕事を提供し、就労活動意欲を育てている。>

利用者のほとんどが障害支援区分における重度であるので、生活支援の中での就労支援は困難であるが、その中でも、利用者のエンパワメントを高める観点から、施設内でさおり織りやレジン製品、油とりパックンの制作、野菜育て等、その人に合わせた仕事を提供している。また、自主製品を納品に行く際には、挨拶やマナー等の社会的スキルが習得でき、「仕事」としての働く意欲につながっている。

##### <地域や家族との連携を大切にした支援を行っている。>

ほとんどの利用者が、週末には、自宅に帰り、家族や親族と過ごしているとのことで、馴染みの関係を大切にしている。また、地域に開かれた施設として、地域の福祉施設地域の人々や福祉施設と連携関係を密にしており、従前から地区センター祭りや運動会等、地区行事には参加する等交流が盛んである。コロナ禍以前までは、小学生が遊び道具を持って来訪する等の関係もあったとのことである。さらに、利用者の作品を近隣の福祉喫茶で販売したりする等して、地域の人々との交流を拡充している。

#### <利用者の意思を尊重した支援を行っている。>

利用者オリエンテッドな観点から、利用者一人ひとりの意思決定を大切にしている。利用者の自治会「柿の木会」があり、利用者が主体となって意見表明を行い、要望に沿った支援が行われている。例えば、毎月、昼食は2回、夕食は1回、選択メニューを実施している。また、随時適温の食事を提供するとともに、毎年嗜好調査を行い、メニューに反映させている。入浴についても利用者の要望を取り入れ、月～土曜日で週3回以上の入浴の機会を設けている。

#### ◇改善を求められる点

##### <今後とも、さらなる貢献活動の拡充に向けた取り組みに期待したい。>

社会福祉法人改革の流れの中で、今後、公立施設の使命として、さらなる公益的な事業活動が要請されてくる。現在、地域の拠点施設として、外部講師を招き、地域向けの教室を実施する等、公益的な事業・活動について意識した取り組みを行うとともに、地域の福祉避難所として災害時等の避難施設としての役割を担っている。今後とも、地域ニーズの潜在的なニーズを捉え、さらなる貢献活動の拡充に向けた取り組みに期待したい。

##### <生活環境のアメニティを高めるべく、さらなる取り組みに期待したい。>

築後の年数を経ており、施設の個室化の整備等、アメニティを高めた居住空間の確保に向けた取り組みについては、途上の段階であり、今後の課題である。今後とも居室環境のさらなる改善に向けた取り組みに期待したい。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

福祉サービス第三者評価を受審することで、職員間で支援の実践を振り返り、見直すよい機会となりました。今後、課題の改善を行うとともに、より質の高い支援の提供に向けて、取り組んでいきます。また、今後とも、地域に開かれた施設として、さらなる地域貢献に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

#### ⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。